

第4学年 国語科学習指導案

に組 男子17名 女子16名 計33名
指 導 者 中 熊 豊 仁

1 単 元 場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう (教材「一つの花」光村4年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第3学年の「物語を読んで、しょうかいしよう」の学習で、場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや性格をとらえて読む能力を身に付けている。また、第4学年の「登場人物の人がらをとらえ、話し合おう」の学習で、登場人物の人柄について自分の言葉で考え、進んで伝え合おうとする態度を身に付けている。さらに、**特別な言葉に着目して物語を読み、心に残ったことを基に、内容を友達に紹介したいという願いをもっている。**

そこで、本単元では、登場人物の心情、情景などについて、叙述や特別な意味が込められた言葉を基に想像して読む能力や、**感じたことや考えたことをもとに物語を紹介し、友達との感じ方の違いに気付きながら自分の考えを深めたり広げたりし続けようとする態度**を身に付けさせたいと考え、単元「場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう」(教材「一つの花」)を設定した。

この学習は、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえるとともに、優れた叙述について自分の考えをまとめ、友達と伝え合う第5学年の「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「一つの花」は、戦争中、食べるのもままならない生活を送るゆみ子に対する両親の思いが、「一つだけ」という言葉を軸に、人物の会話や行動として表現されている物語である。社会的事象への関心が高まり、戦争に関する報道に興味を示しながらも戦争を実感することなく育つこの期の子どもたちが、戦争の悲惨さや平和のよさ、子を思う親の愛情を考えるのに適した教材である。また、本教材は、場面が、戦争中と終戦十年後に区切られ、戦争中の「一つだけ」は、戦後には食物を選択できるようになり、「一つだけ」ではなくなる。よって、時間の経過に即して「一つだけ」の言葉がもつ意味を考えることで、物語中の特別な言葉に着目して読む力を高めることができる。さらに、物語を読んで感じたことや考えたことを基に物語について紹介し合うことで、友達との感じ方の違いに気付くことができ、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。

そこで、本単元では、平和にくらせる世界を願って書かれた物語の中から読みたい物語を選んで読み、紹介する文章を書くことを、単元を貫く言語活動として設定する。そして、教材「一つの花」をどのように読み、どのような観点で紹介する事柄を取り上げるのかを明確にしながら読み進める。

具体的には、まず、**試し作りとして、「一つの花」を紹介する文章を書いて交流させ、うまく伝わったことや伝わらなかったことを整理させ、紹介する物語の読み方についての課題意識をもたせるとともに、紹介する観点を話し合わせる。また、自分の選んだ物語の並行読書を始めさせる。**

次に、「一つの花」の登場人物の気持ちや場面の情景を想像させるために、登場人物の行動や会話、心情表現に着目させると共に、題名とそれに関わって各場面に繰り返し出てくる特別な意味が込められた言葉「一つだけ」の意味について考えさせる。

さらに、「一つの花」を紹介する文章の見直しの文章を書き、試し作りの文章と比較させて、変容やその理由に気付かせ、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。また、自分の選んだ物語について、紹介する文章を書かせる。そして、これらの紹介する文章を、友達の文章と比較させることで、感じ方の違いに気付かせ、自分の考えを深化・拡充するとともに学び合う喜びを共有させる。

これらの学習によって得られる能力や態度は、主題に沿って様々な角度から文章を読む能力や、様々な見方や考え方を認めながら他と交流しようとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想 (複数回答)
・ゆみ子への反応(16)〈父親不在への同情(7)「ひとつだけ」はかわいそう(2)わがまま(1)かわいい(1)成長(1)空腹(1)自分と似ている(1)「ひとつだけ」は何回も言う、いっぱいになる。(2)〉 ・両親への反応(11)〈優しさ(5)父親の最後の言葉への感動(3)父親の戦争後の所在(1)父親の最後のプレゼント(1)母親の大変さ(1)〉 ・その他(6)〈家族のきずな(2)物や食べ物の大切さ(2)コスモスが咲いたことへの感動(1)不戦への共感(1)〉
② 疑問に思ったこと
・ゆみ子への反応(18)〈父親の顔を覚えていないこと(7)「ひとつだけ」を言うこと(4)いつから「ひとつだけ」を言わなくなったのか(4)ゆみ子がお昼を作ること(3)〉 ・両親への反応(15)〈高い高いしたこと(3)戦争に行ったこと(3)何も言わずに行ったこと(3)コスモスを渡したこと(1)軍歌はうれいのか(1)母親の「ひとつだけ」の口癖(3)「ひとつだけ」に答えること(1)〉
③ 作者の伝えたいこと
・わがままはいけない(6) ・平和の大切さ(5) ・物や食べ物の大切さ(5) ・家族の大切さ(4) ・今は恵まれている(4) ・父親の子どもを思う気持ち(4) ・一つでもうれしいことがある(3) ・経験を通して成長する(2)
④ 紹介したい内容 (複数回答)
・戦争の悲しい話(12) ・ゆみ子の口癖(12) ・あらすじ(6) ・父親が一つの花をあげる(5) ・感動する話(4) ・ゆみ子が成長する(3) ・ゆみ子がお母さんになる(3) ・ゆみ子が何でもほしがらる(1) ・ゆみ子がかわいい(1) ・家族のきずな(1) ・たくさんコスモスが咲く(2)
⑤ 物語を読むときに大切なこと (複数回答)
・人物の気持ち(16) ・人物の人がら(5) ・人物の行動(4) ・会話文(4) ・場面の様子(4) ・文章構成(2) ・作者の伝えたいこと(2)
⑥ 難語句 (複数回答)
・配給(6) ・防空頭巾(5) ・とんとんぶき(5) ・勇ましい(4) ・軍歌(3) ・あやす(3) ・兵隊(3) ・プラットホーム(2)

ほとんどの子どもが、両親のゆみ子へ対する愛情を感じ取っている。そして、戦争によって別れなければならなかった親子の悲しみと同時に、父親の願い通り、コスモスが咲き、ゆみ子が成長したことへ気付き、感動を覚えている子どももいる (①)。一方で、疑問に思ったことの内容から、ゆみ子や両親に関する叙述から場面の様子や心情を十分想像することができていないことが伺える (②)。作者の伝えたいことについては、平和や家族の大切さに気付いている子どもが多い (③)。「ひとつだけ」の意味を考え、場面の様子や人物の心情を十分に想像し、場面のつながりを意識する読みが十分になることで読みが深まると考えられる。紹介したい内容の観点としては、中心人物であるゆみ子のことや感想の二つの観点に関するものが多く、観点が広がりが見られない。これは、他の観点での読みの経験が少ないことに起因していると思われる (④)。身に付ける国語の能力として、物語を読む時に大切にしていることを挙げさせたが、実態調査の読みでは、意識している国語の能力は少ないと言える (⑤)。難語句については、戦争中特有の語句が多く挙げられている (⑥)。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもが「一つの花」を紹介する文章を書く試し作りから課題を見出し、友達との交流を通して、物語の読み方を身に付けることができるよう、指導内容設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えます。

ア 単元・教材への興味・関心を高めるために、平和にくらせる世界を願って書かれた物語の並行読書を行わせる。そして、両親のゆみ子に対する思いをとらえさせるために、登場人物の行動や会話に着目させ、人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読み取らせる。さらに、作者が「ひとつだけ」に込めた思いに気付かせるために、戦争中と戦争後の場面を比べさせ、父親の行動や会話、最後の言葉とつなげながら「ひとつだけ」と言わなくなった理由について考えさせる。

イ ゆみ子の両親の様子や気持ちを読み取らせるために、戦争中と戦争後の場面の状況や人物の様子、一輪のコスモスの花といっぱいになった花など、対比的な表現に着目させる。また、「まるで～のように」という比喩表現に着目させて思いが広がるように読ませたり、「～のでした。」などの文末表現の効果を考えさせたり、多くの接続語や指示語を手がかりに読み深めができるようにしたりする。さらに、物語の紹介の観点を常に意識させる中で、これらの表現の効果についても、紹介の観点として意識させ、それを生かして、他の物語の読みが深められるようにする。

ウ 学習したことに対する有用感や達成感を味わわせて、自分の選んだ物語の読みや今後の物語の読みへとつなげるために、身に付けた国語の能力を振り返らせたり、物語を紹介することによって得られたよさを交流させたりする。

3 目 標

- (1) 平和にくらせる世界を願って書かれた物語を読んで心に残ったことを基に、伝えたい内容を選び、友達に紹介しようとするができる。
- (2) 互いの考えを比較し、一人一人の考えやその根拠の共通点や相違点を明らかにしながら自分の考えを深めたり広げたりするとともに、互いの感じ方の違いに気付くことができる。
- (3) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ち、情景などについて、人物の行動や会話、心情表現をもとに想像して読むことができる。

4 指導計画 (全9時間)

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	どの物語を紹介しようかな。 紹介する文章を読んだ人が、物語を読みたくなるには、どんな内容を、どのように紹介すればいいだろう。	1・2 教材との出会い・試し作り・課題解決の見直し 「自分の選んだ物語について、心に残ったことをしようかいしよう。」 ・ 「一つの花」について紹介する文章を書き、交流する。(試し作り) ・ 単元の目標を設定し、学習計画を立てる。 ・ 「一つの花」を紹介する観点を話し合う。(本時)	○ 単元や教材への興味・関心を高めたり、学び合いを通して紹介の内容を深めたりするために、並行読書をするための物語を、教師が予め選択し、提示する。 ○ 単元や教材への課題意識を高めさせるために、「一つの花」を紹介する文章の試し作りをさせ、よりよく紹介するための物語の読み方についての課題を明確にさせる。
しらべる④	「一つの花」の学習を通して、物語を紹介する内容を考えよう。 特別な言葉に着目すればいいのだな。	3～6 限定された場面での試行錯誤 『一つの花』を、観点を考えて読み、しようかいしよう。」 ・ 戦争中と戦争後の世の中の様子や出来事、登場人物の心情を読み取る。 ・ 「一つだけ」や「一つの花」の意味を考える。 ・ 紹介の観点に基づいた感想や考えを書く。	○ 紹介する内容の観点を、子ども自身が見付け、観点を広げたり、観点を意識して教材文を読んだりできるようにするために、試し作りで書いた「一つの花」について紹介する文章の観点について話し合わせる。 ○ 作者の思いに気付かせるために、繰り返し出てくる特別な言葉である「一つだけ」に着目させながら読ませるとともに、戦争中と戦争後の場面を比較させ、「一つだけ」と言わなくなった理由を考えさせる。
ふかめる①	学んだことを生かして、自分の選んだ物語を読み直し、紹介する文章を書こう。 書く内容や書き方が分かったから、最初書いた文章よりもっと読んでみたくなると友達が言ってくれたよ。	7 試行(試し作り)の見直し 『一つの花』について紹介する文章について交流し、新しく学んだ物語の読み方について確かめよう。」 ・ 自分の選んだ観点に基づいて、「一つの花」を紹介する見直しの文章を書く。 ・ 試し作りと見直しの文章を比較したり、交流したりする。 ・ 学習を振り返り、変容を確かめる。	○ ゆみ子の両親の様子や気持ちを豊かに想像させるために、文章中に多く用いられている対比的な表現や比喩表現に着目させ、一人一人の感じ方について話し合わせる。 ○ 読みを深めたり、表現の効果に気付かせたりするために、文末表現を他の文末表現に置き換え、読んだ感じを比較させ、話し合わせる。
ふりかえる①	特別だと思える言葉に着目すると、考えが深まるね。 いろいろな物語を読んで、自分の考えを日記等を書いて紹介しよう。	8 広い場面での試行錯誤 「自分の選んだ物語について、学んだことをもとに読み直し、しようかいしよう。」 ・ 自分の選んだ物語を読み直す。 ・ 観点を明確にして、紹介する文章を書く。	○ 一人一人の感じ方や考え方の違いに気付かせるために、お互いに感じたこと・考えたことやその根拠について比較し、共通点や差異点を明らかにさせる。 ○ 本単元の学習を価値付け、今後を生かすために、身に付けた国語の能力を振り返ったり、他の物語を読ませ、観点を明確にして紹介する文章を日記等に書かせたり、交流させたりする。
いかす①		9 活用場面の想起 ・ 他の物語を読む。 ・ 他の物語について紹介する文章を書く。	

5 本 時 (2 / 9)

(1) 目 標

「一つの花」を紹介する試し作りの文章と、友達の手書いた文章やモデルの文章とを比較することを通して、共通点や差異点に気付き、物語を読んだことのない人でも読みたくなるように紹介する文章を書くための観点を明らかにすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、方向性の決定を目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、本単元で身に付ける国語の能力に関する読みの観点を含んだモデルを提示し、「試し作りの感想と比べて同じところやちがうところはどこか。」と問うことで、新たな物語の紹介の観点到気付かせる。また、紹介の観点は読みの観点になることを確かめると共に、誰に紹介するのかを明確にさせる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 学習のめあてを設定する。 「一つの花」を読んだことのない人が読みたくなるには、どのようなことをしようかかすればよいのだろうか。	(分) ↑ 7	○ 課題意識を高めるために、試しの紹介する文章を書くことによつて見出した課題について確かめたり、書かれた紹介する文章が、読んだことのない人でも読みたくなる文章になっているかを考えさせたりする。 ○ 見通しをもって主体的に学習させるために、ひとみ学習で自分の考えをより確かなものにしていく学習の進め方を確認する。
	2 課題解決の見通しをもつ。 3 自分の書いた「一つの花」を紹介する文章(試し作り)と、友達が書いた文章や既習教材「ちいちゃんのかげおくり」を紹介する文章をもとに、紹介の観点(身に付ける国語の能力)を明らかにする。 ひとりで考える 自分の書いた紹介する文章は、心に残ったことについて、書いているよ。 とみ 友達の紹介する文章と比べる ・ あらすじを書いた上で、その感想を書いているね。悲しいお話だと思ったのだね。 観点「あらすじ」 ・ 「一つだけちょうだい。」という言葉を紹介したのだね。わがままで感じたのだね。 観点「特別な言葉」 紹介する文章のモデルと比べる ・ たとえの表現が使われているところが、この話に合っていると感じたのだね。 観点「表現の特徴」 ・ 繰り返し出てくる言葉や題名の意味を考えたのだね。「一つの花」でも考えられる。 観点「題名」	28	○ これまでの学習で身に付けてきた国語の能力を確認させるために、試しの紹介する文章をペアで読み合い、お互いの文章がどのような観点で書かれているかを話し合わせる。 ○ 作品の特徴や特別な言葉、作者などの新たな観点到気付かせるために、紹介する文章のモデルを提示すると共に、それらの観点による教材文の読みや紹介することのよさについて考えさせる。 ○ 身に付ける国語の能力を意識させるために、紹介の観点を意識することであり、物語を読む上で身に付けてきた国語の能力を発揮することであったり、身に付けようとする能力を学ぶことであったりすることを確かめる。
しらべる・ふかめる	紹介の観点をまとめる 紹介の観点是、いっぱいあるよ。今まで考えたことのない観点でも読んでみよう。 ・ 題名 ・ 作者 ・ 登場人物 ・ あらすじ ・ 出来事 ・ 作品の特ちょう (組立や表現) ・ 心に残った言葉や文 ・ 感想や考え	10	○ 自分の選んだ物語についての紹介する文章を書くことの見通しをもたせるために、教材文の学習と同時に、同じ観点で並行読書を進めておくことを確認する。 ○ 学び合いのよさを実感させるために、友達との交流を通して新たな発見をしたり、自分の変容に気付くことのできたりした喜びを振り返らせる。
	4 学習のまとめを行う。 見つけた観点を、読む時の観点として物語を読み、特に心に残った観点の内ようについてしようかかするとよい。 5 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを話し合う。 ○○さんは、自分と同じ観点でしようかかする文章を書いていた。共感できたし、自信もつた。違う観点でも書けるように読んでいきたい。		ふりかえる・いかす